

教育振興基本計画に基づいた取組

英語教育の強化について

◆ 教育振興基本計画での位置づけ

最重要目標	基本的な方向	施策	掲載ページ	
未来を切り拓く 学力・体力の向上	誰一人取り残さ ない学力の向上	◎ 言語活動・理数教育の充実(思考力・判断力・表現力等の育成) ◎ 「主体的・対話的で深い学び」の推進(各学校の実態に応じた個別支援の充実) ◎ 英語教育の強化 ○ 全市共通テスト等の実施と分析・活用	第1編 p.12	第2編 p.36

本市では平成25年度(2013年度)から、「小学校低学年からの英語教育」を段階的に実施する等、児童生徒の英語力向上をめざす取組を進めてきました。*1令和元年度(2019年度)には「聞くこと」「読むこと」の英語2技能では*2CEFR A1レベル(英検3級)相当以上の英語力を有する中学3年生の割合が、全国平均を10ポイント上回っています。小学校での英語教科化を始めとした学習指導要領の全面实施を踏まえ、これまで取り組んできた小中学校9年間を見通した英語教育の取組を更に推進するとともに、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の英語4技能の総合的な育成に取り組んでいきます。

- *1 令和3年度(2021年度)からは「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の英語4技能により、*2CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合を調査
- *2 CEFRとは、Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment(日本語訳:ヨーロッパ言語共通参照枠)の略で、「外国語学習者の習得状況・言語運用能力」を示す共通の基準



最重要目標「誰一人取り残さない学力の向上」の達成に向けた具体的な取組

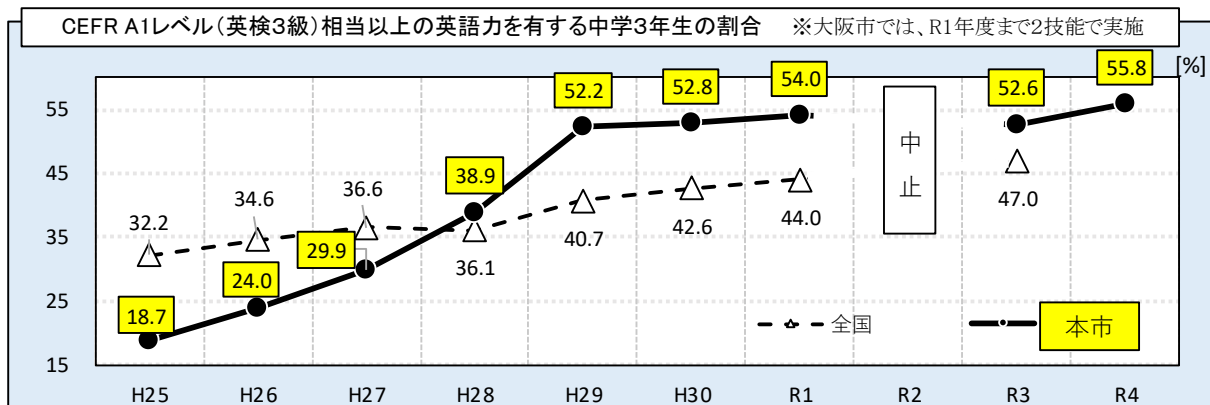
***CEFR A1レベル(英検3級)相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)**
【本市調査(大阪市英語力調査)】

目標：令和7年度末 56% (国の第3期教育振興基本計画における目標値は、50%以上)

◆ 大阪市英語力調査結果の推移

生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てることを目的に実施しています。

- 実施テスト：GTEC Core(英語4技能型テスト)
- 調査対象：大阪市立中学校第3学年全生徒



(4技能ごとの状況)

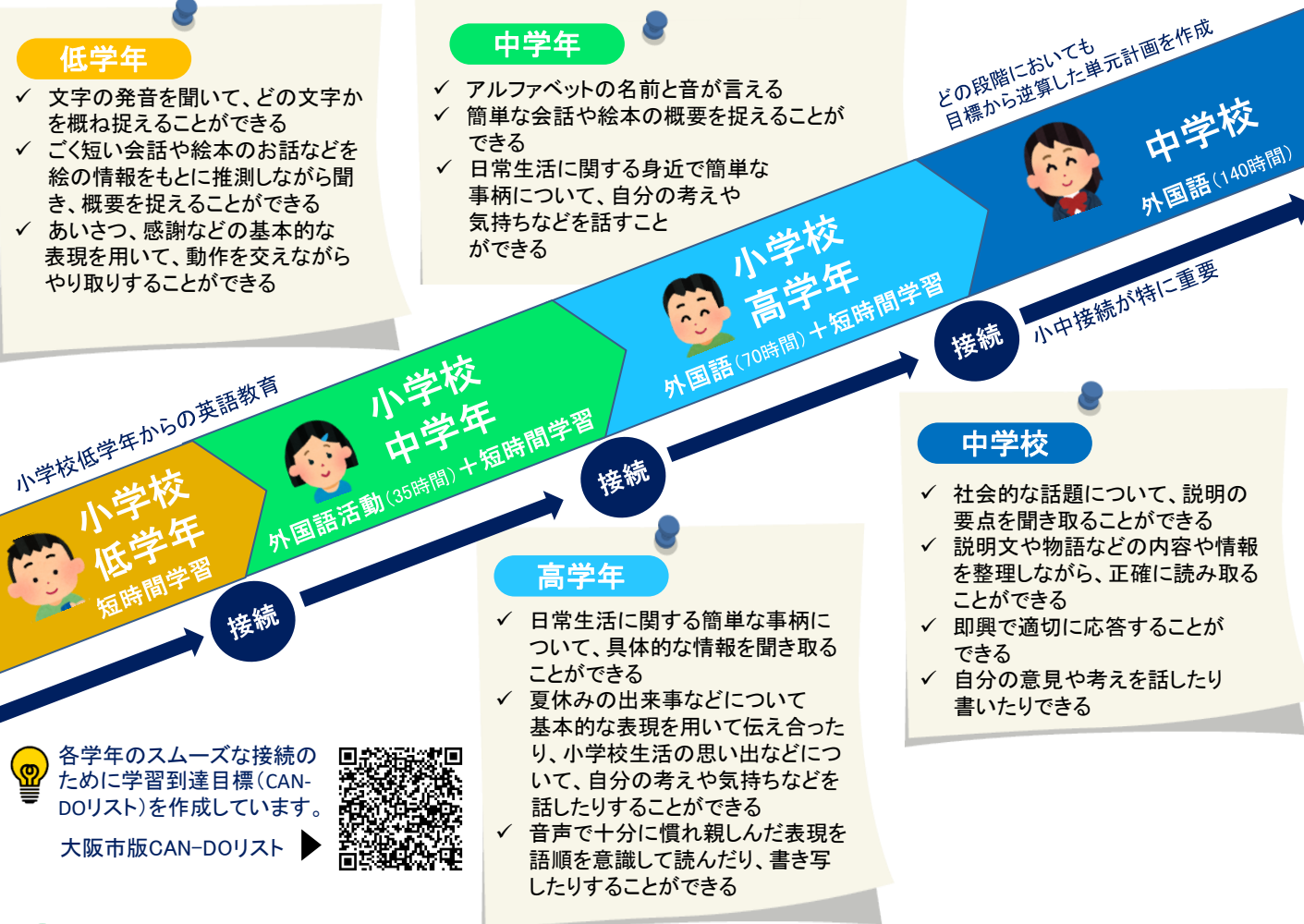
		GTEC 平均スコア				TOTAL
		リスニング (聞くこと)	リーディング (読むこと)	スピーキング (話すこと)	ライティング (書くこと)	
R3 (2021)	大阪市平均	108.0	100.9	93.0	140.3	444.4
	*3全国平均	104.0	98.0	99.0	157.0	461.0
	差	+4.0	+2.9	-6.0	-16.7	-16.6
R4 (2022)	大阪市平均	105.4	102.8	96.6	152.4	459.4
	*3全国平均	104.0	99.0	97.0	153.0	456.0
	差	+1.4	+3.8	-0.4	-0.6	+3.4

- 4技能トータル・スコアでは、昨年度から15ポイント上昇し、全国平均を3.4ポイント上回りました。
- リスニング、リーディングが全国平均を上回っている一方で、これまで弱みであったスピーキング、ライティングも全国平均並みに上昇しています。



*3 全国平均とは、過去3年間でGTECを実施した全国の学校の平均スコア

大阪市では、小中学校9年間を見通して、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の4技能を総合的に育成することで児童生徒の豊かな語学力・コミュニケーション能力等の向上をめざしています。段階ごとのめざすべき主な目標は次のとおりです。



目標の達成のために、大阪市では、平成25年度から「英語イノベーション事業」に取り組んでいます。教員の熱心な指導により、大阪市英語力調査結果のとおり徐々に成果があがっています。

英語イノベーション事業

低学年 中学年 高学年 中学校

1 小学校低学年からの英語教育 (短時間学習)

- 短時間学習の取組: 週複数回かつ週20分以上 音と文字をつなげる指導を中心に全小学校で実施 →自ら読もうとする力、間違いを恐れずに話そうとする力等を育成

2 英語体験イベント



- 「イングリッシュデイ」: 英語を使う機会を提供 →英語が通じた、聞き取れたという達成感を獲得 英語学習のモチベーションの向上

3 ネイティブ・スピーカーの配置

- ネイティブ・スピーカー(大阪市では、Osaka City Native English Teacherを略してC-NETと呼ぶ)を全小中学校に配置(令和4年度126名) (1学級あたりの平均年間活用授業数) 3、4年生:12コマ 5、6年生:24コマ 中学校 :15コマ →生きた英語を聞く力、話す力、豊かな国際感覚等を育成

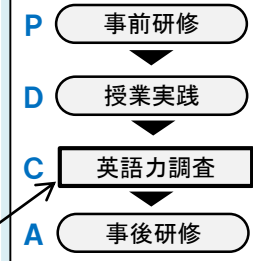
4 教員の指導力・英語力向上に向けた研修



● 専科加配教員(小学校教員及び中学校英語科教員)を研修
→小学校教員の負担軽減を推進しながら、円滑な小中接続を実現

● 平成30年度(2018年度)から英語授業力向上推進チームを立ち上げ、小学校を巡回訪問して小学校教員の指導力向上を支援
・校内研修
・授業参観後の指導助言
・有効なチームティーチングの研修

● 大阪市英語力調査を活用した授業改善プログラム



→教員の指導力向上と授業改善を推進

● 短時間学習研修
音と文字をつなぎ、自ら読もうとする態度を育成
→大阪市独自の取組である「小学校低学年からの英語教育」を推進

● 英語力向上研修(夏期集中講座)
→教員がCEFR B2レベル(英検準1級)の英語力を身につけ、英語による授業を展開

5 大阪市英語力調査 (英語4技能型テスト)

● 大阪市英語力調査
→生徒が自らの英語力を的確に把握



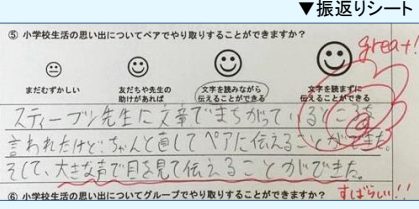
上記のとおり施策を進めることで、子どもたちの英語力の向上を図っています。各校の取組例を次に紹介します。ぜひ、参考にしてください。

◆鶴見南小学校◆

コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成するため、以下の取組を実施しています。

- 自然と英語に触れることができる学習環境の整備
- 成長を感じることができる振り返りシートの開発

↓ 玄関モニターで、読み聞かせ動画を放映することで、児童の英語に対する興味・関心等の学習動機付けになりました。



↑ 振り返りシートを活用して、授業を振り返り、G-NETとのやり取りを通じて児童自身が間違いに気づき、修正することができています。また、言葉以外で伝えることの大切さに気付いている様子がわかります。

◆野里小学校◆

- 学習環境や授業のユニバーサル化(誰もが学ぶことできる)を研究の視点として全学年で研究に取り組みました。
- 教室の英語表記や発達段階に応じた板書、掲示物等を工夫し、学習環境を整えたことで、児童の学習意欲が高まり、先生の英語による指示や語りかけを積極的に聞き取りとする態度の育成に繋がりました。
- 児童間のやり取りにおいて、相手の言葉に反応することを意識づけ、児童同士のコミュニケーションを豊かなものにしていきます。反応やコメントは、話し手に安心感を与え、コミュニケーションの楽しさを感じるとともに、児童の話すことへのモチベーションを高めることに繋がっています。



◆大和川中学校◆

～筋トレのように何度もくり返し、くり返し！～
以下の取組を行うことで、生徒の英語力を鍛えています。

- 基本的な語彙や表現の定着
・1年生から小テスト等をくり返し、徹底して基本的な語彙や表現の定着を図っています。
- 多読教材「読みトレ」で読解力アップ
・定期的に、英語で書かれた日常的、社会的な文章を多読することで、初見の文章の読解力向上を図っています。
- 1分間スピーキング
・1年生からほぼ毎授業、1分間スピーキングに取り組んでいます。
- 3分間ライティング
・1年生からほぼ毎授業、3分間ライティングに取り組み、協働学習支援ツールを活用してフィードバックを行っています。



▼協働学習支援ツール

「3-3 What makes you happy」 - A4横 -

I have many things to make me happy.
My dog makes me happy. His name is KONTA.
He is very cute and smart.
So, I often walk with my dog.
He loved by my family.
I think that he loves us.
Talking with my friends makes me happy too.
My friends are very funny.
They make me smile when I was sad.
Playing volleyball is happiness for me.
Hearing good songs makes me happy.
I often Aimyon's

生徒が書いた作文を先生や友だちと共有できたり、複数名で同時に書き込みをして意見交換したりできます。